
NARUTO転生モノ。

不思議の国のミク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

NARUTO転生モノ。

【Nコード】

N7533Z

【作者名】

不思議の国のミク

【あらすじ】

ツバサ転生モノ。の主人公アリスさんが、NARUTOにいったら。という妄想小説です。

といっても、プロローグからすべてやり直しますが。容姿、能力などは、次元移動と、運などは変わりますが、後は変わりません。ツバサと同じように駄文になると思いますが、おねがいします。

プロローグ（前書き）

プロローグです。

プロローグ

「う・・・ん・・・？」

目覚めるといつもとは全く違う場所。

目の前には少女さんがいる・・・。

まあ、それはどうでもいいとし「どうでもいくないですよ！」て、とりあえず、夢だか「無視ですか！？無視するんですか！？」「らもう寝てしまいましょう。

「おねがいます！！反応してください！！もうないちゃいますよ！？」

えーっと、あ、床がちよつと固いですが、寝れますね。よし寝ましょう「本当にお願います！！反応してください！！反応してくれなかつたらもう本当にないちゃいますよ！！！」

「あーもう！うるさいです。せつかく寝ようとしていたのに、なにしてくれちゃってるんですか。」

「私！？私が悪いんですか！？」

「あたりまえじゃないですか。いいから寝かせてくださいよ。」

「いや、おねがいます！本当に！話だけでも聞いてください！」

・・・しかたないなあ。

「で、話はなんですか。」

「ようやく聞く気になってくれましたか・・・それでは話します。あなたは私のせいでしんでしま・・・よし。寝よう。」いえ！！本当なんです！寝る準備しないでください！！」

ここに生きているじゃないですか。いい加減にしてくださいよ。

「いえ、あなたは私のせいでしんでしまいました。」

「一応信じて見ることにします。で、あなたは誰なんですか。」

「私ですか？フッフッフ。聞いて驚いてください！わたしはか「よし。寝よう、うん。」あああつすみませんっ！！すみません！！もうふざけないので聞いてくださいいいいいっ」

「もう一度聞きます。あなたは誰ですか。」

「私は神です。」

「頭が逝かれていますか。大丈夫です。私の近くにある精神科のお医者さんはとてもやさしい方なのでやさしくしてくれま「お願いします！！本当にお願いします！！話を聞いてください！！話を聞いてくれないと神の座から天使に下ろされてしまうんです！！」・・・はあ、分かりました。少しの間しゃべらないので、その間にはなしてください」

「ふう・・・では、もう一度います。私は神です。でも、まだまだ新米なので、仕事にあまり慣れていませんでした。なので、この

前に、机の上の書類を床にぶちまけてしまつて・・・で、書類を取つていたら、運悪く書類を踏みやぶいてしまいました。その紙があなたのことが書かれている紙だった・・・というわけです。」

「ふうん。一応信じることにします」

「有難うございます。それで、あなたを殺してしまったお詫びというわけで、転生&チート能力を渡そう、とおもったので、呼び出させていただきました」

「そうですか。わかりました。因みにもこの世界には「できないです・・・すみません」なんで？」

「死者が元の世界に戻るためには、一度善行を行っていた方は、天国に。悪い事をしていた方は、地獄に。ということになっています。そこで、5年間天国では、魂を休めます。地獄では、分かると思いますが、今まで行った罪を地獄で苦しめます。ですが、軽い罪だと、半年くらいで天国にいけます。ですが、普通の寿命よりも早く死んでしまった場合、元の世界にもどれなくなってしまうんです。天国にも、地獄にもいけないので・・・」

「ふうん。それじゃあどこにいくのですか」

「はい。あなたには、この中のどれか1つをえらんでいただきます。」

「そういつて紙がだされた。」

「えっと・・・」

魔術と科学がある世界。

ある学園での世界。

心を使つて銃を撃つ世界。

忍者がいる世界。

魔法少女がいる世界。

えっと。

多分、1はある魔術の世界ですよ。

2は・・・予想が付きませんが、平和な世界のように。

3は多分テガミバチですね。

4は忍者ですからNARUTOですね。

5は・・・リリカルなのはか、まどかの世界でしょうか。

1は上条さんの不幸が悪化しそうなので、却下。

2はチート能力くれるのに、まず平和ということで却下。

3は下手したら心となくなしそうなので却下。

4は結構刺激があつて面白そうで、ナルトにもあつてみたいし。候補

5は魔法少女とか興味ないので却下。

となると4番ですね。

「4番をお願いします」

「わかりました。それでは能力を5つだけいってください。殺しちやったの私ですし。」

少々無理なものでもかなえます」

「それでは・・・」

1つ目はテガミバチのマカノ能力（髪の毛を剣に変える・身体能力）ですね。

2つ目はとある魔術の禁書目録の超能力全般、レベル5で使えるようにしてほしいです。

3つ目は、やっぱりチャクラを九尾の10倍くらいで、超能力をチャクラで代用するようにお願いします。

4つ目はうちは一族に生まれるようにしてお願いします。

でも、万華鏡車輪眼は、5歳のときに開眼するようにお願いします。

5つ目はやっぱり、原作加入できるようにお願いします。

後は・・・ないですね」

「チャクラ九尾の10倍って・・・結構きつい事いいますね。でも、不可能ではないのでがんばってみます。」

パチンッ

神様が指パチンするとパソコンが出てきました。

「（カタカタカタカタ）・・・よしっ。なんとかできました。それでは、第2の人生をお楽しみください。」

すると、目の前が暗くなってきた。

「あ。神様。私のわがままきいてくれてありが・・・と・・・」

う

そのまま意識を失った。

プロローグ（後書き）

プロローグです。

誤字脱字があればお願いします。

主人公設定（前書き）

主人公設定です。

主人公設定

主人公設定

名前 うちは アリス

容姿 テガミバチのニツチよりも？低い。
髪は茶髪、目は金色、手は普通。

体重 聞いたってほぼ意味がないほど軽い。
敵に軽く投げられただけで？飛ぶ。

性格 自分からは攻撃しない。でも相手が攻撃したら
攻撃を開始する。はつきり言って冷血

能力 とある魔術の禁書目録の超能力を
すべてLv5で使える
テガミバチのマカ能力身体能力は修行して、
3倍になっている。
チャクラが九尾の5倍となっている。

とりあえず今はこうなっています。

話が増えていくごとに、多くなると思います。

主人公設定（後書き）

誤字脱字など報告お願いします。

1話 アリスの誕生？（前書き）

1話です。

1話 アリスの誕生？

こんにちは、アリスです。

生まれて間もないころに捨てられました。

なぜでしょう。

それは、自分のチャクラが膨大にあったから。

チャクラが多いのがだめでしたね・・・

そしてマダラさんに拾われました。

まさかの暁に入りましたよ。

原作加入したいといってもこういう形で入りたくはなかったですね・
・・。

まあ、別にいいですが。

ゼツさんからいうと、木の葉に入って九尾の監視をして、報告する、
だそうです。

まあ、こういう立場もいいかもしれませんね。

暁の中で、5年たった後に、万華鏡写輪眼が開眼しました。

マダラさんとかペインさんとかに驚かれましたね。

まあ、暁の本部に住むわけにはいけないので今実際一人暮らしをしていますからね。

6歳になったときにイタチさんが暁に入ってきました。

イタチさんに驚かれたけど、「サスケを頼む」っていつてきましたし。

サスケさんも監視して、イタチさんに報告しています。

ちなみに今アカデミーで授業している途中です。

マカ能力のせいか、記憶力がいいらしいですね。

テガミバチのニツチも200年以上前のこと、覚えてるって言いますし。

まあそこら辺はおいといて、

いまナルトさんがいるか先生に怒られていますね。

火影の顔岩に落書きをしたとか・・・

ちなみに成績は中くらいでとどめています。

たまに1度で成功したり。などですね。

修行するときは結果はっています。

理由は簡単です。そのときに報告とかしたり、普通の修行法（といってもガイ先生でも全くできないくらいハードな修行）など、あまり見られたくないですからね。

超能力とか、マカ的能力で、剣にしたり、武器作ったりなど。

みられたら、火影さんに聞かれそうですし。

あ、ナルトさんがイルカ先生に口答えして、変化の術のテストをすることになりました。

まあ、楽勝なので、一発合格にしますか。

あ、ナルトさんの番ですね。

「変化！！」

ボンッ

「イルカせんせえ」

とかいいながらウイंक。

はつきり言って気持ち悪いですね。

あ、イルカ先生が鼻血だしてたおれました。

「バカモノ！！変な術作ってないで、術の練習でもしてる！！」

あー、怒られてますねー。

まあ、関係ないですが。

あ、次私ですね。

「変化」

ボンッ

普通に火影さんに似てるように変化しました。

「よし、いいぞ」

うん。疑われていないですね。

そうやってどんどん次にいってって、終わりました。

あ、今日の授業おわりました。

もう帰りましょうか。

ん？サスケさん？

サスケさんなら結構うまいくらいで終わらせましたね。

はっきり言ってサスケさん。迷惑なことしてますからね。

先生がこの術しますよー、とかいってお手本見せてる途中で、やっ
てともいってないのにやって、成功させてますからね。

先生からにらまれてますよー。

ちなみにナルトは、サスケのマネして、失敗しておわりましたね。

ナルトはチャクラの練り方が駄目だから、失敗するだけですからね。

こんど教えましょうか？

いや・・・だめですね。

あまり原作を壊したくないので、Cランク任務のときにやることにしますか。

そうしたら中忍試験の時にあまり負担がかかりませんしね。

個人的にはイタチさん死んでほしくないのですが、とりあえずサスケが大蛇丸に呪印つけられないようにしますか。

イタチさんは弟思いのいい人ですからね・・・。

そんな人が死んでしまうなんてもったいないので。

とりあえず、あまりイタチさんに負担かけない様にしますか。

あ、もうこんな時間ですね。

とりあえず寝ます。

今気づいたことが1つ。

身長がニッチよりも低いです。

まあ、7班にはいれるとは原作加入能力で、わかりますが。

タズナさんにバカにされそうですね。

まあ、どうでもいいですか。

寝ましよう。

1話 アリスの誕生？（後書き）

誤字、脱字などの報告おねがいします。

アトバイスや感想もお待ちしております。

2話 アカデミー卒業試験。(前書き)

いつきにとびます。

2話 アカデミー卒業試験。

こんにちは、アリスです。

今日は、アカデミー卒業試験とかいうやつですね。

もちろん、課題は分身の術ですが。

ナ「げええっ！俺の苦手な術だってばよ・・・」

うん。ここも原作とおりですね。

それにしても、これ終わったら報告ですか。

その後は自由行動っていわれてますし・・・

ま、ここはミズキの傍観でもしますか。

あ、サスケさんが出てきましたね。

そっいえばこの試験ってランダムなんですよ。

なんというか・・・、くじであたった人から呼ばれて、そのままいくって感じですね。

まあ、あまり何番目でも別にいいですけど。

サスケさんが先にしても、結果額当てをみれば、合格したか分かりますし。

後でも、少しまっつてれば分かることですから。

ナルトさんは、原作どおり失敗するはずですから。

特にきにしくなくても、大丈夫でしょう。

「次ッ！アリス！」

あ、呼ばれましたね。

それでは、いってきます。

イ「いつも通りにするんだぞ」

「はい。分かりました」

んーどうでしょう。

一応分身の術は、得意というキャラで言ってますから……

3〜6くらいでいいでしょう。

『変化ッ！』

ボンッ （煙が出た音）

するとアリスが5人になっていた。

イ「よしっ！合格だ！」

うん。疑われていないから、大丈夫だね。

得意だし、5人ぐらいでも普通だとおもってたんですね。

今の状態で本気だしたら何体でるんでしょう・・・

大体1万はでますよね。軽く。

まあ、早く報告しないと・・・。

額当てもらって、普通に挨拶っと。

「先生！ありがとうございますっ」

そして満面の作り笑い。

うん。これで演技は完璧ですね。

はあ、それにしてもこのアカデミーのレベルに合わせるって結構面倒くさいです。

レベルが低すぎるんです。

もう面倒くさいってほどじゃないですね。

ななど行きたくないとおもったか・・・。

早く家に帰って報告しないと・・・。

あ、サクラさんですか？

サクラさんは、監視対象にもなっていないんで、

自分の中では、モブキャラ程度しか思ってます。

しかもいつもいつ「サスケくうくん！！私合格したよおお」

はい、そうです。

すっごくいいです。

はつきりって邪魔でしかありません。

サクラさんもそうですが、イノさんも同じ感じですし。

はつきりってどうでもいいですから。

でも同じ班になるのは本当はやめてほしいかな・・・。

なんかネギま！とかでよく見るアンチっていうのをやってみましようかね・・・。

・・・面倒くさいですからやめときましようか。

おっと、そういつてる間にもう家についていました。

さっさと報告書かいて、渡ししょうか。

ほとんど誰にも見つからない洞穴があるんですよ。

そこで報告書を渡してるわけですが。

原作の場所と、すぐ近くなので。

早くいかないといけませんね。

結界はって・・・マカ的能力をつかって、鉛筆を5本持ちます。

そして報告書を一気に書く！

こうしたら1分くらいでもうできちゃいますからね。

筆跡は私の字と同じですし。

ちなみに能力のことは、暁全員に話してありますから、驚かれませんし。

で、書き終わったので、さっさと渡しにいきましょうか。

アリス移動中

よし、着きましたね。

早く渡しちゃいましょうか。

結界はって・・・と。

ゼツさん。

ズズズズズ （岩の壁から出てくる音）

（白いほうと黒いほうの名前忘れてしまったので、白と、黒で分けます。）

白「もう終わったのかい？早いね」

黒「デ、報告書ハドコニアル？」

「はい、これです」

白「毎回悪いね。ありがとう。」

「で、こつちをイタチさんに渡してくれませんか？」

黒「アア、ワカッタ」

「ありがとうございます。次の報告は何時ですか？」

白「大体中忍試験前くらいのときに報告をお願いするよ」

「わかりました。では」

ズズズズズ （岩の壁に戻っていく音）

「さて、と。まずは、傍観ですね」

そういつて少しあるいてから気づいた。

「そういえば火影は水晶玉からなんか見てるんですね」

・・・そうだ。

「結界張って、自分のことを認識できなくしましょう」

言わば、ネギま！という、認識障害魔法ですね。

まあ、魔法なんてオカルトなモノでもないですが。

とりあえず、結界はって・・・

ついでに気配も消して・・・っと。

よしっ、傍観いきましようか。

アリス移動中

うん、いますね。

ミ「・・・・・・・・ま・・・・・・・・た！・・・・・・・・なんだよ！！」

ああっ、少し遅かったですね。

まあいいです。

ちょっとくらいおそくでも、大丈夫でしょう。

イ「そうだよなあ・・・・・・・・さびしかったんだよなあ・・・・・・・・」

イルカ先生がナルトさんをかばってますね。

ナ「な、なんで・・・俺なんかを・・・」

こちら辺はつまらないですね・・・なんか漫画とかで、よくある展開ってモノですね。

ちよっとききがして、最後のほうに移動。

少しまっていたらナルトさんとイルカさんがきましたね。

イ「ナルト・・・少し後ろを向いて、目をつぶっている」

おっ。額当てをつけてますね。

ナ「えっ・・・？」

イ「卒業・・・おめでとう！」

ナルトさんよかったですね・・・

あ、でも今考えたら、私というイレギュラーが入ったらスリーマンセルじゃなくて、フォーマンセルになりますね。

そこは修正力とやらが働いて、まあ、大丈夫ですよね。

イ「よしっ！それじゃあ今日は、俺が一楽のラーメン奢りだ！」

ナ「本当だつてばよ！？やったー、いっぱい食べるつてばよ！」

終わったみたいですし。戻りましょうか。

瞬身の術で家にすぐさま移動。

もう寝ますか・・・。

一方。火影のところでは・・・。

火「ふむ・・・これはなんじゃ？」

そこにあっただのは、ちょっとぼやけたようなものが映っていた。

元々、認識障害魔的なものなので、耐性があるならば、少しはみえるようになっていく。

なので、少しでも耐性があった火影は、うつすらとみえる、ぼやけたようなものに調査をするように忍に頼んだ。

ちなみにこのことをアリスは知らなかった。

2話 アカデミー卒業試験。(後書き)

2話です。

少しは長くかけたかと思っています。

アトバイス、感想、誤字脱字等等。

報告お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7533z/>

NARUTO転生モノ。

2011年12月26日22時49分発行